

失敗しない ダイエツト

ツチヤの口車

1345

土屋賢二

これまでさまざまなダイエツト法が発表され、そのたびにダイエツトに失敗する人の数が増えてきた。だがダイエツトに悩んでいる人々に朗報だ。このたびわたしは必ず成功するダイエツト理論を開発した。もう悩むことはない。わたしはダイエツトを始めて二十年以上になる。こう言う人があるが、笑う人の特徴は、①物事を深く考えず、愚かに見える発言を見つけると、鬼の首をとったように喜ぶわたしのような浅はかなダイエツト

プ、②わたしの教え子の中には三十年以上にわたってダイエツトしている者がいることを知らない人だ。

わたしは最近よく食べるのは、チャーシューを大量にトッピングしたチャーシュー麺や、カツカレーだ。食後、数時間は苦しい量だが、それでもダイエツト中である。それだけ食べる理由の一つは、最近、外国で日本食ブームでカツカレーが流行し、ラーメンが一杯三千円と言われる高価な料理になっているというニュースを見たからだ。日本では千円ほどだから激安だ。食べないとせつかく日本にいる意味がない。もう一つの食べる理由は、ニュースを見る前から同じように食べていたからだ。短期間ではダイエツトの結果は出ない。数カ月でこれだけ痩せたと豪語する人の特徴は、①肥満気味か、やつれたような痩せ方をし

ているかどちらかだ②野球を三回まで見て勝敗を決めつける軽率なタイプである。ダイエツトは、短期間で成否を判断できるものではない。勝負はもっと長い。一時的に痩せても、たい

ていその数カ月後にはリバウンドする。リバウンドするたびに前よりも体重は増え、前よりも痩せにくい体質になる。ダイエツトしない方がダイエツトになるほどである。

ダイエツトと似ているが、わたしは十年以上指の痛みでピアノに触っていない。ピアノを断念したのかと言う人もいるが、ピアノはまだ練習中である。プロのピアノストは一日練習しないと腕が落ちたことが分かるというが、わたしの実力はそんな脆弱なものではない。何カ月ブランクがあっても腕が落ちたとは自他ともに分らない。練習しているときは、眠っている間も食事している間も「練習中」である。ピアノを弾かない時間があっても「練習中」であることに変わりはない。十年程度休んだぐ

らいでピアノを断念したと速断しないでもらいたい。

一般に、短期間で決着がつくことはむしろ少ない。このことは、麻雀かパチンコか投機か競馬か競艇かルーレットかブラックジャックかチンチロリンをやったことがある人なら、身にしみて分かっているはずだ。途中どんなに儲けていても、最終的には負けることがいかに多いか痛いほど実感させられるのだ。

だから、野球で三回が終わったところで勝敗を判断するような早まった真似をしてはならない。ダイエツトが最初の半年か一年で成功しても、それは成功ではない。死ぬまで続く長い勝負なのだ。野球やギャンブルと違って、いつ終わるか

ルと違って、いつ終わるかが不明である。ダイエツトは生きているうちは、成功とも失敗とも分らないのである。安心できるではないか。

しかも死の前には、食欲が失われ、痩せるのが普通だから、望んでいた形かどうかはともかく、突然死さえ避ければ、ダイエツトは成功が約束されている。

失敗づくしの人生で、確実に成功するものが他にあるだろうか。罪の意識を一切もたずにラーメンが食べられるのだ。

もう怖いものなしだ。矢でも鉄砲でももってこい。ラーメン店に行き、いつものように注文した。ただ、大盛りにするのは控えた。

